豊中市地域包括支援センター外部評価表

○仕様書[4] 業務内容 ア) 介護予防ケアマネジメント業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
1	<p>介護予防ケアマネジメント業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください）</p> <p>☒ <u>自立支援に資するプランになるよう、委託先の居宅介護支援事業所に対し、積極的なアプローチを実施している。</u></p> <p>☐ 高齢者の主体性を引き出すための工夫をしている。</p> <p>☐ リハビリテーション専門職に意見を求めるなど、生活能力の改善・維持・悪化の可能性を見極める視点を培っている。</p>	<p>【目標と具体的な取組み内容】</p> <p>目標： 委託先の居宅介護支援事業所に自立支援で社会参加を目指す為に地域資源を介護支援専門員に知ってもらい、プランに反映させます。</p> <p>内容： 2ヶ月毎に「ケアマネほっとミニ」を開催し、自立支援につなげる為に圏域の地域資源の情報を介護支援専門員に提供して、介護サービス計画書に反映させる事の意識付けを行いました。</p> <p>【課題】 地域資源マップを提供したことで圏域の地域資源情報は委託先の介護支援専門員にも周知出来ていますが、対象者のニーズを反映したマッチングに課題があると考えます。</p>	<p>【取組進捗状況内容】 介護支援専門員に対し、2ヶ月毎に勉強会・情報共有の場を設け、自立支援につながるプラン作成が出来るよう支援されています。</p> <p>【特に優れている点】 介護支援専門員への周知状況達成状況を、後日アンケートを実施することによって確認されています。</p> <p>【課題】 対象者個々の課題やニーズを掘り下げ、介護予防への意欲向上につなげられる、取組</p>

令和6年度 少路地域包括支援センター

	☐ 潜在的対象者の把握について工夫している。	【改善の方策と次年度の取組み】 アセスメント支援訪問を活用します。次年度から必須ではなくなりますが意欲の引き出しの為にはアセスメント支援訪問が必要と考えます。 介護サービス計画書作成時はアセスメント支援訪問を活用し、「ケアマネほっとミニ」で共有します。	みの拡充に期待します。
--	---	---	-------------

令和6年度 少路地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 イ) 総合相談支援及び権利擁護業務について特に力を入れて取組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
2	<p>総合相談支援及び権利擁護業務（次のいずれかの視点を入れて取組んでください）</p> <p>☐ 自分らしく尊厳をもって生活することができるよう、自己決定・意思決定支援をしている。</p> <p>☒ <u>予防的アプローチと地域づくりに取組んでいる。</u></p> <p>☐ 3職種の専門性を活かしたチームアプローチを実施している。</p> <p>☐ 多機関と連携した重層的支援体制の構築に向けた取組みを実施している。</p>	<p>【目標と具体的な取組み内容】</p> <p>目標： 多機関とつながることでお互いの役割を知り、支援者が連携しやすい体制をつくります。</p> <p>内容： 高齢部会で協議すべき事例を地域の関係機関と一緒に選定を行いました。その事例に応じて医療・介護福祉関係者のみでなく民間業者にも参加を促し、年間で1～2回各校区で高齢部会を開催しました。事例を元にグループワークで話し合い、関係機関がそれぞれの立場で対応できることについて意見を交わしました。ケースに応じた関係機関の実際の動きを共有していくことで重層的支援体制の構築につながりました。</p> <p>【課題】</p> <p>高齢部会開催後も地域住民より相談を受けたがその後の相談先が分からないという不安を訴える声の関係機関から挙がりました。その理由として日頃から連絡する機会が少ない機関とは連携がしづらいと言う課題がみえました。</p>	<p>【取組進捗状況内容】</p> <p>多職種が集い、重層的支援が必要な事例検討を行うことを通じて、ケースの共有と知識の拡充をめざすことで、予防的アプローチにつなげる地域づくりに取り組まれています。</p> <p>【特に優れている点】</p> <p>事例を基にした課題の共有を行う事によって、地域の課題に即したアプローチにつなげていけるよう取り組まれています。</p> <p>【課題】</p> <p>民生委員の大幅な入れ替えを踏まえ、地域づくりの中で、スムーズな情報共有・情報交換ができる仕組みの工夫に期待します。</p>

令和6年度 少路地域包括支援センター

		<p>【改善の方策と次年度の取組み】</p> <p>具体的にイメージすることで自信を持って支援に関わっていけるよう、事例を通して関係機関であらゆるケース支援の検討と実践が経験できる高齢部会を引き続き定期的を開催していきます。</p> <p>高齢部会のみでなく、なんでも相談や地域の集いなどにも直接出向き、少路包括がワンストップの機関であることを引き続き周知を行っていきます。</p>	
--	--	---	--

令和6年度 少路地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 ウ) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務について特に力を入れて取り組んだことを記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
3	<p>包括的・継続的ケアマネジメント支援業務（次のいずれかの視点を入れて取り組んでください）</p> <p>☒ <u>介護支援専門員等への個別ケアマネジメント支援において、地域包括支援センターが代わりに行うのではなく、介護支援専門員がより良い判断に到達できるよう助言等の支援している。</u></p> <p>☐ 地域アセスメントを実施し、地域の実情に応じた取組みを実施している。</p>	<p>【目標と具体的な取組み内容】</p> <p>目標： 介護支援専門員が抱える困難ケースを通して多職種で検討し、介護支援専門員の気づきを促します。</p> <p>内容： 「ケアマネほっと」で支援困難ケースの事例検討会を実施し、介護支援専門員が支援する上で困っている認知症の事例、ハラスメントの事例を多職種で検討し、介護支援専門員の視野を広げました。</p> <p>又、高齢部会においても、圏域の介護支援専門員にも参加してもらい、民生委員等の地域福祉関係者とのつながりをつくり、介護支援専門員の視野を広げました。</p> <p>【課題】 様々な困難ケースを抱えている介護支援専門員の相談が増えてきており、事例検討の回数をどこまで増やせるか検討が必要です。</p>	<p>【取組進捗状況内容】 介護支援専門員の勉強会で、事例検討を行い、それらの解決のための地域づくりにも取り組まれています。</p> <p>【特に優れている点】 介護支援専門員が実際に困っている事例共有を行う事によって、より実務につながられるよう配慮されています。</p> <p>【課題】 重層的支援が必要なケースに対し、対応できるケース会議・事例検討で、より多彩な知識や視点の拡充につながる取組みの拡充に期待します。</p>

令和6年度 少路地域包括支援センター

		<p>【改善の方策と次年度の取組み】</p> <p>事例検討会は次年度も継続し、事例は介護支援専門員から聴き取りを行った内容を踏まえ多職種の視点により効果的な支援計画策定につながるよう展開していきます。個別ケースに基づいた高齢部会も開催していく事で介護支援専門員や民生委員双方の動きを共有します。</p>	
--	--	--	--

令和6年度 少路地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 エ) 一般介護予防事業を推進する取組みについて記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
4	<p>一般介護予防事業を推進する取組み（次のいずれかの視点を入れて取組んでください）</p> <p>☒ <u>地域の通いの場づくりにおいて、地域及びグループの特性に応じた活動を、創意工夫しながら支援している。また地域で通いの場の普及啓発に取り組んでいる。</u></p> <p>☐ 多様な地域活動や通いの場等と連携し、高齢者の社会参加促進のための地域資源の情報収集及び共有を行い、地域の介護予防ネットワークの構築を推進している。</p>	<p>【目標と具体的な取組み内容】</p> <p>目標： 自主グループの継続し、参加人数を増やす事で、地域住民相互の助け合い、支え合いの意識向上、個々の介護予防の意識の促進を目指します。</p> <p>内容： ・20カ所立ち上がっている通いの場に定期的に訪問し、体操の再指導や介護予防にまつわる講和を行う事で自主グループの活動が活発になるよう働きかけました。 ・フェイスブック、X（旧 Twitter）などの SNS を用いて圏域のマンション住民対象とした啓発やデイサービス等の介護施設等に出向いて豊中パワーアップ体操の啓発行い、新規の通いの場の立ち上げにつながりました。</p> <p>【課題】 全校区立ち上がっているが、東豊台校区が1カ所、少路校区が2カ所で対象がマンション住民と限定的となっています。参加人数が多く新規の受け入れが出来ない状態です。</p>	<p>【取組進捗状況内容】 圏域内の通いの場を、改めて活性化し、活動の拡充につなげられるよう留意されており、各グループへの働きかけや新たな活動内容の付加等が行われています。</p> <p>【特に優れている点】 既存の通いの場や集いの場を活用し、他機能や他の目的を持った集いとする事で、参加者とグループの継続につなげられるよう取り組まれています。</p> <p>【課題】 場の継続と内容の拡充をめざした、内容の工夫と発展に期待します。</p>

令和6年度 少路地域包括支援センター

		<p>【改善の方策と次年度の取組み】</p> <p>前年度に引き続き通いの場の普及啓発活動は継続します。マンション毎の啓発を中心に行い、参加者を増やします。</p> <p>介護予防を目的とした地域教室を取り入れながらグループ活動の継続支援を行います。</p>	
--	--	---	--

令和6年度 少路地域包括支援センター

○仕様書[4] 業務内容 オ) 認知症地域支援・ケア向上事業について特に力を入れて取組んだことを1つ記入してください。

番号	評価項目	自己評価（目標達成度）	外部評価 (地域包括支援センター運営協議会からの意見等)
5	<p>認知症地域支援・ケア向上事業（次のいずれかの視点を入れて取組んでください）</p> <p>☐ 認知症支援に関する個別事例において、嘱託医、初期集中支援チーム、疾患センター等の専門機関に相談する必要性を判断し、必要時相談できる体制を整えている。</p> <p>☒ <u>地域の実情に応じた方法により、認知症の人とその家族が参加する場で、本人の意欲向上と家族の介護負担感の軽減、認知症の人の在宅生活の安定を推進している。</u></p>	<p>【目標と具体的な取組み内容】</p> <p>目標： 認知症に関する正しい知識の周知活動を行い、地域住民の理解を深めます。</p> <p>認知症当事者、家族、各関係機関や地域住民が集い、安心して情報交換や交流が出来る場を地域の身近な場所で増やしていきます。</p> <p>内容： 関係機関を個々に訪問しオレンジカフェの周知を行なうことで、様々な立場の支援者が開催するオレンジカフェが新たに立ち上がり、認知症当事者や家族の参加につながりました。</p> <p>若年性認知症当事者と家族に対して交流の場は設けられませんでした。就労や障害福祉サービス等ニーズに沿った支援につなげることができました。</p> <p>【課題】 オレンジカフェがない校区があること、また現在あるオレンジカフェも長期開催になるにつれ本来の目的が曖昧になっている実態があり、継続した展開につなげるのが課題と考えます。</p>	<p>【取組進捗状況内容】</p> <p>新たなオレンジカフェの立ち上げを図り、大半の校区で、オレンジカフェが開催される体制となりました。前年度に比して、認知症当事者や、家族等支援者の参加増加につながっています。独自のモデルプログラムを作成し、スムーズなオレンジカフェの立ち上げと、継続につながれるよう取り組んでいます。</p> <p>【特に優れている点】</p> <p>地域の通いの場や、集いの場等に、独自の動画とパンフレットを持参し、新たなオレンジカフェの立ち上げにつながられています。認知症当事者や家族等支援者の参加につながるため、地域密着型の事業所や、地域の民生委員等へも働きかけ、参加者の拡充をめざした活動が展開されています。</p>

令和6年度 少路地域包括支援センター

	<p>【改善の方策と次年度の取組み】</p> <p>オレンジカフェがない校区へ引き続き周知活動を行い、また継続開催していけるようにオレンジカフェの開催者の要望を聴き取りながら認知症にまつわる情報提供や専門的な講話などを行います。</p> <p>若年性認知症の進行度を踏まえながら地域包括支援センターが主となって当事者・家族より意向を聴き取ります。既存のサービス利用のみでなく、聴き取りの中で当事者の集いへの参加の要望があった際には大阪府若年性認知症支援アドバイザーの助言を受けながら市外の集いの場所なども柔軟に情報提供し、参加を促すなど意向に沿った支援につないでいきます。</p>	<p>【課題】</p> <p>オレンジカフェ参加者のニーズや利用者層にあわせた、展開の工夫に期待します。</p>
--	---	---